

国語プリント No. ()

配布日 月 日 曜

年 組 番 名前

群読の技法

群読には様々な技法があり、それによつて表現を豊かにできる。次にあげるのは一例であるが、活用してみよう。

1 ソロ・アンサンブル・コーラス

ソロは一人で読む。ただし、「一人が読む」ではない。順番に一人ずつ読んでもいい。
アンサンブルはグループで読む。
コーラスは大勢で読む。

2 「+」漸増法 前に付け足していく。

+ b	a	大きな	aが読む
+ c	a	大きな	aとbが読む
+ d	a	大きな	aとbとcが読む
	a	大きな	aとbとcとdが読む

3 「-」漸減法

- d	a	小さな	aとbとcとdが読む
- c	a	小さな	aとbとcが読む
- b	a	小さな	aとbが読む
	a	小さな	aだけで読む

4 追いかけ 追いかけて読む

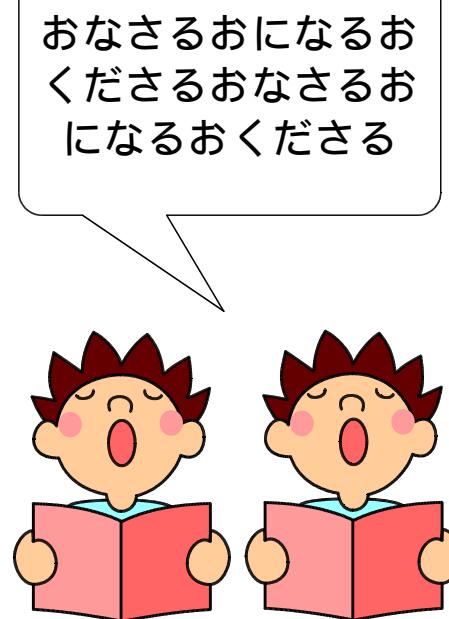
a	ふるふるふるふるゆきがふる
b	ふるふるふるふるゆきがふる
c	ふるふるふるふるゆきがふる
d	ふるふるふるふるゆきがふる

右のような場合、aが「ふるふる」と読むと、bが「ふるふる」と追いかけ、cが「ふるふる」と読むと、dが「ふるふる」と読んでいく。a b cの声が次々に重なっていく。

5 「」乱れ読み 声を合わせずにわざとばらばらに読む。

§全員 消防車 清掃車 散水車

右の場合、読み手の全員がわざと声をそろえずに読む。読みがばらばらになつて乱れるので乱れ読みという。



			a
		b	
	c		
d			

表にすると次のようになる

雲から山へ	山から川へ	a	
山から川へ	川から海へ	b	
川から海へ	海から世界へ	c	
海から世界へ	ふりそそぐ	d	
ふりそそぐ	山から川へ		
山から川へ	川から海へ		
川から海へ	海から世界へ		
海から世界へ			

8 「」 異文重奏 異なる言葉を次々とかぶせて重ねていく読み方。「」はそこで終了の意味。

a b c d の三人がいつせいに同時に自分の文を読む。そう読むと、声が混じって何を読んでいるのか分からないうが、それでよい。雰囲気を作る読み方。

「」なさる 「」になる 「」くださる 「」なさる 「」なる 「」くださる
 「おなさる」 「おになる」 「おくださる」 「おなさる」 「おになる」 「おくださる」
 「」する 「」いたす 「」いたく 「」それに加えて 「」せつしあげる
 「おする」 「おいたす」 「おいたく」 「それに加えて 「」せつしあげる」

d c b a
